もの知りこどもタイムズ

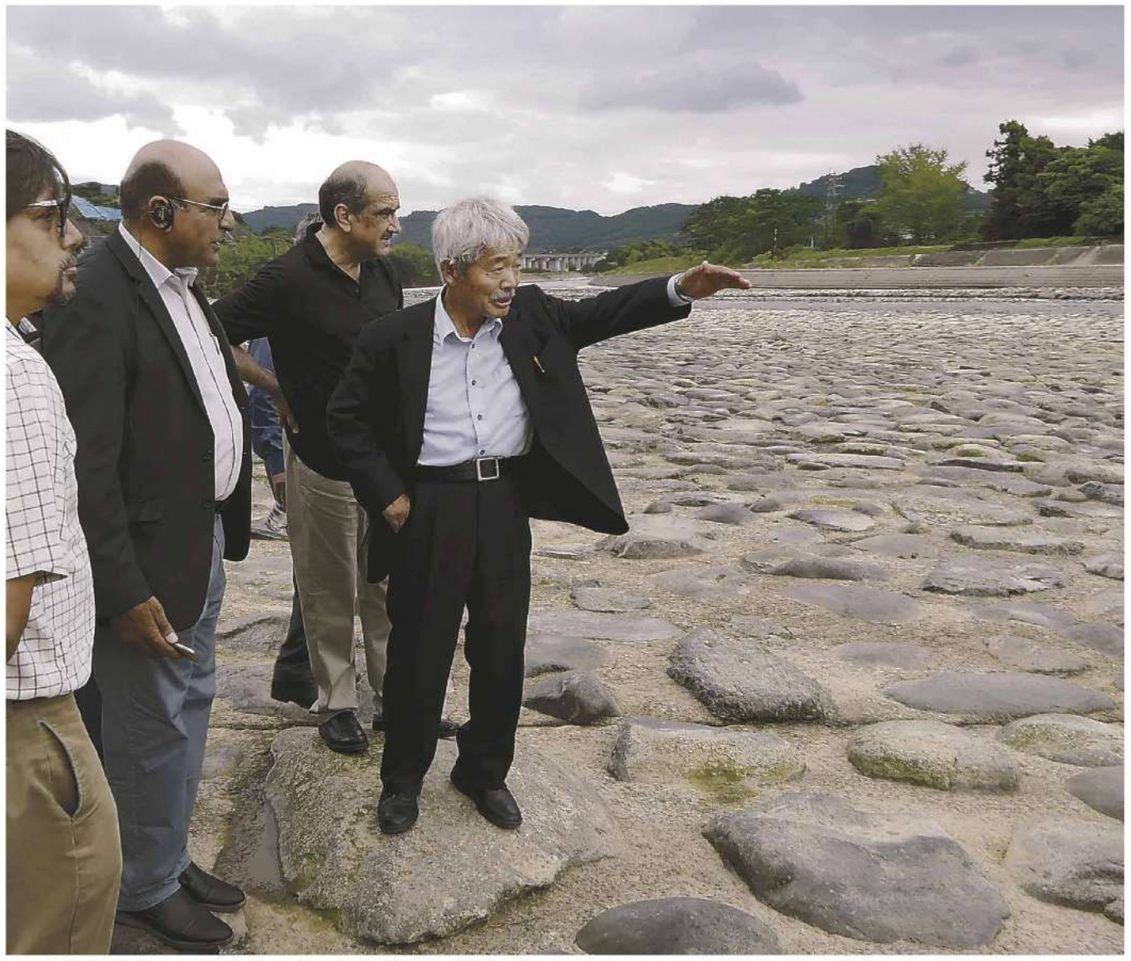
砂漠を緑にかえたお医者さん　中村哲先生の物語　⑥

お手本は筑後川の山田堰　むかしの知恵に学ぶ

用水路は人がつくった水の通り道です。大切なのは川の水が多くても少なくても、ちょうど良く水を引き入れること。用水路から水があふれてしまわないように、工夫をこらして工事をしなければなりません。アフガニスタンで用水路をつくった中村哲先生がお手本にしたのは、福岡県朝倉市の筑後川にある山田堰でした。

山田堰は、川の中にたくさんの石をならべてつくられた島のようなもの。川の水をここでいったんとめて、用水路の方に流す役割があります。山田堰ができたのは200年以上前の江戸時代です。上手に水を用水路に引き入れることを考えて設計されたので、今もこわれずに使われています。

中村先生たちはアフガニスタンの東側を流れるクナール川のあちこちに、山田堰そっくりの堰をつくりました。そのおかげで小麦を作れるようになった多くのアフガニスタン人から「ありがとう」と言われました。中村先生はこう答えました。「私たちへのお礼はいりません。水は自然のめぐみ。神さまからのいただきものですからね」



福岡県朝倉市の山田堰に立つ中村先生。見学に来たアフガニスタンの人たちを案内しました　＝2018年

はちみつ作りの作業を見守る中村先生（みぎ）＝2019年4月、PMS提供

ペシャワール会を応援するには

中村先生の仲間のアフガニスタン人たちは今も用水路をほり、畑で野菜やくだものを育て、はちみつを作るなどがんばっています。アフガニスタンで活動する「PMS（平和医療団・日本）」をサポートするのが福岡市に事務所がある「ペシャワール会」です。会員は全国に約1万3000人います。

活動を応援したいと思う人はペシャワール会の会員になって会費を支払ったり、そのほかの人もお金を送ったりすることができます。お金は工事をする人たちのお給料、用水路づくりに使う材料、野菜の種、病院で患者さんにあげる薬などを買うために役立てられます。くわしくは会のホームページにのっています。工事や畑の様子をまとめた報告も写真付きで見られます。

【会のホームページ】＝http://www.peshawar-pms.com/

感想を送ってください

もの知りこどもタイムズでは、中村哲先生の物語を全部で6回掲載してきました。お医者さんなのに、井戸や用水路をつくることになった理由、35年間活動してきたアフガニスタンとパキスタンから世界の人たちに伝えたかったこと…。みなさんは、この物語を読んでどう思いましたか？　何を感じましたか？

編集部まで感想文や絵を送ってください。対象は、小中学生と園児のみなさんです。紙面などで紹介します。

作品には①名前（ふりがな）②生年月日と年れい③住所④電話番号―を書いてください。

送り先は次の通りです。

■郵送＝〒810-8721　西日本新聞こどもタイムズ編集部

■メールとFAXでも受け付けます

中村先生、73歳でおわかれ　ことば、勇気　わすれない

中村先生が亡くなった次の日、アフガニスタンの首都カブールではたくさんの人たちがろうそくをともして悲しみました　＝2019年12月5日（ロイター・共同）

お別れ会で中村先生の写真に向かって手を合わせる人たち。全国から5000人が集まり、中村先生やいっしょに亡くなったアフガニスタン人のためにお祈りをしました　＝2020年1月25日、福岡市早良区・西南学院大学

特別サイトでも紙面が読めます

西日本新聞の「中村哲医師特別サイト」でも、この紙面が読めます。サイト内にある子ども向けページの「教材用素材」をクリックしてください。自宅での学習や授業などに役立ててください。